

# 安倍政権の評価 その6

## ChatGPT との対話

国債は後世の負担になるわけで、いわば利益の先食いをした事になります。これは重大な問題ですが。

ご指摘はもともと、「将来世代へのツケ回しではないか」という懸念は財政論の核心です。

ただ、この論点は少し分解すると見え方が変わります。

### 1) 「後世の負担」とは何を指すのか

#### A. 家計的なイメージ

- \* いま支出を増やし、将来世代が税で返す  
→ 「利益の先食い」に見える。

#### B. マクロ経済の現実（国内保有・自国通貨建て）

- \* 国債の多くは国内で保有（家計・金融機関・日銀）
- \* 将来の利払いは「若い世代→同時代の高齢世代」など国内の所得移転になる側面が大きい
- \* 国全体の純負担が海外に流出する構造ではない。

ただし、だから問題が小さい、とは言えません。論点は次です。

### 2) 本当の「世代間負担」はどこに生じるか

#### ① 税・社会保障の将来負担

- \* 債務が高いほど、将来は「増税や給付抑制」の圧力が強まる。  
→ 若年世代の可処分所得を圧迫。

#### ② 金利上昇リスク

- \* 低金利前提で成り立ってきた財政。
- \* 金利が上がると利払い費が急増し、「教育・子育て・投資的支出が圧迫」される。  
→ 将来世代の成長機会を削る可能性。

#### ③ 成長率が低い場合の「重さ」

- \* 債務が問題かどうかは、成長率（ $g$ ）と金利（ $r$ ）の関係で決まる。
- \*  $g \geq r$  なら持続可能性は高い。
- \*  $g < r$  が続けば、負担は雪だるま式に重くなる。  
結局、借金そのものより「成長を作れたか」が決定的。

### 3) 「先食い」か「先行投資」か

評価の分かれ目はここです。もし国債で

- \* 生産性向上（DX、教育、研究）
- \* 子育て・人的資本投資
- \* インフラの高度化

を行い、将来の税収基盤を拡大できれば → 「先行投資」

しかし

- \* 一時的景気対策
- \* 構造を変えない給付
- \* 既存制度の延命

に使われた比率が高いなら→「先食い」

安倍政権期は、金融緩和と財政出動で「時間を稼いだ」一方、その時間を「抜本的な成長投資・分配改革に十分振り向けられなかった」という評価が強い。

4) それでも「重大な問題」か？

はい、「中長期では重大」です。理由は3つ。

1. 「人口減少下の債務」は重くなりやすい
2. 金利正常化局面に入った
3. 社会保障費は今後も自然増

つまり、「今は回っている」が、将来世代の選択肢を狭めるリスクは確実に存在する。

5) では何が責任ある対応か

- \* 成長率引き上げ（人的投資・規制改革）
- \* 歳出の優先順位の再設計（高齢偏重の是正）
- \* 税体系の見直し（広く薄く、成長阻害を最小化）
- \* 金利上昇を織り込んだ中期財政フレームの明示

「借金を急減」よりも「増えない軌道に乗せる」ことが現実的です。

● まとめ

国債は確かに将来世代へのリスクを伴う。ただし“破綻のツケ”というより、将来の税・成長機会・政策自由度を縛る重石\*\*という性質が強い。

問題の核心は「借りたかどうか」ではなく、借りた時間で何を変えられたかにある。